

OLEinzel and SPORT *ident*®による大会運営マニュアル（日本語訳 ver1.02）

Instructions for the organiser 運営者のための導入手引書

SPORT *ident*

Revision date: 1998/12/10 更新日: 1998/12/10

Table of contents 目次

1.	Introduction	導入編
2.	Long term event preparation	大会運営準備（中長期的な計画）
2.1.	Event types	大会形式
2.2.	Preparing the software	ソフトウェアの準備
2.3.	Event procedures planning	運営手順の計画
2.4.	Equipment planning	機材の計画
2.5.	Practical examples	実例
2.5.1.	Training event type C	練習会レベル(type C)
2.5.2.	Open event type B	標準大会レベル(type B)
2.5.3.	Regional ranking event type A	地方選手権レベル(type A)
2.5.4.	National ranking event or championship type A	国内選手権レベル(type A)
3.	Preparations for the competition day	大会当日の準備
3.1.	SPORT <i>ident</i> equipment	SPORT <i>ident</i> システムの機材
3.2.	PC hardware	PC関係機材
3.3.	Networking	ネットワーク
4.	Competition day	
4.1.	Preparing SI stations - putting out the controls	SI ステーションの準備 - 大会用コントロールを実際に準備するにあたって
4.2.	Hardware setup	ハードウェアの設定
4.3.	The competition	大会当日の運営
4.4.	Troubleshooting	トラブルシューティング
4.5.	Network server failure during the event	ネットワークトラブルの対処

1. Introduction 導入編

この文書は、OLEinzel 及び SPORTident Manager (SIManager)のオンラインヘルプでは説明しきれない内容について、解説するためのものです。オリエンテーリングの大会運営者が OLEinzel 及び SPORTident Manager を私用して大会運営を行うための助けになることでしょう。この文書は一般的なオリエンテーリング大会の運営については触れておらず、あくまで OLEinzel 及び SIManager のオンラインヘルプでは説明できない内容について SPORTident 製品の使用方法を解説したものです。また、ソフトウェアの導入について解説するものでもありませんので、もし必要なら OLEinzel 及び SIManager のオンラインヘルプを参照してください。

この文書は、SPORTident 製品の使用方法を解説するため、Peter Fritschy (Bern for the Swiss O organisers)によって執筆されたものです。

この文書に関して、ぜひ直接質問やご意見を以下までお寄せください。

Dipl.-Inf. Stephan Krämer
SPORTident electronic punching software manager
Orienteering event software and services
Brinkmannstr. 21
D-95666 Mitterteich
phone +49 9633/91210 fax +49 9633/91211
EMail: StKraemer@sportsoftware.de
URL: <http://www.sportsoftware.de/>

この手引きは以下のバージョンのソフトウェア及びハードウェアに対応するものです。

O event software OLEinzel V.9.01 Pro
SPORTident manager V.8.40
SPORTident hardware of version 3: BSM3, BSF3

All topics regarding OLEinzel are also valid for OLStaffel and MTageOL.
OLEinzel に関する項目は、OLStaffel 及び、MtageOL にも適用可能です。

Mitterteich, December 1998

2. Long term event preparation 大会運営準備（中長期的な計画）

近年の電子技術の急速な進歩により、従来の人手に頼った方法ではない新しい方法を使うことができるようになった。

これらの電子技術はよりユーザに身近になり、技術音痴のあなたでも使いこなせるようになってきています。にもかかわらず、さまざまな問題を解決するには依然としてこのようなノウハウが必要です。しかしながら、このようなPCハードウェア・ソフトウェアの知識を十分備えた人が、オリエンテーリングクラブのメンバーに通常一人や二人はいるものです。SPORTident製品を使いこなすには、そのような人が最適です。

その方は、PC及びSPORTident製品のハードウェア、ソフトウェア、準備作業、運用すべてにわたって責任をもって担当する必要があり、PCを自由に扱える環境にあることが望ましいです。また、大会運営当日のデータ処理を行う責任者であると共にエントリーの宛先（申込先）であるべきです。これらの準備作業を分担する場合、この人を責任者として、データの管理・処理をとりまとめるようにするとよいでしょう。

準備段階から大会当日に至るまでどのようなトラブルが発生しようとも対処できることが必要でしょう。（もちろん何も起こらないに越したことはないのですが）

2.1. Event types 大会形式

運営する大会形式により、SPORTident製品の運用方法と用意すべき資材の数は異なります。大ざっぱに以下の3種に分類できるでしょう。

Type A 標準	原則事前申込、ヴァカントに遅れ申込可、スタートリストあり
Type B 地方大会	大半が事前申込、当日申込可、スタートリストなし
Type C 練習会	小規模で、当日申込のみ、スタートリストなし

地方・国際競技大会レベルでは通常Type Aとなります。

運営形式により、準備のやり方や申込・スタート・フィニッシュなどの運営手順が異なってきます。PC及びSPORTidentシステムの必要数量は、運営形式よりもむしろ参加者のスタート間隔やフィニッシュの混雑度に関係します。そのため、同じ参加者100名でもType AとType Cでは必要数量が2倍になります。

2.2. Preparing the software ソフトウェアの準備

大会運営準備をするにはOLEinzelのインストールされたPCが1台必要となります。準備作業を分担する場合、それぞれにOLEinzelのインストールされたPCが1台必要となります。

準備に使用するPCに特別なハードウェア的な必要条件はありません。Windows95/98/NTが動作していれば問題ありません。[OLEinzel-General-Preconditions](#)の項も参照してください。

PCのうち1台はマスターPCとしなければなりません。このPCは常に最新の状態である必要があり、すべての編集作業はここで行わなければなりません。ただし例外があり、コース定義に関してはそれぞれ別の定義を作成し、後でマスターPCのデータに統合することが可能です。詳細は作者までお問い合わせください。

OLEinzelのオンラインヘルプ [check list](#) の項目は、必要な準備作業のよい指針となってくれるでしょう。以下のリストは、それに加えて大会形式の項目が盛り込まれています。

Preparations 準備

A,B,C	Create a new event	新規イベントの作成
A,B,C	Modify event options	イベントオプションの編集
A,B,C	General settings	一般的な設定
A,B,C	Import archive	ファイルのインポート

Entries エントリー

A,B,C	Defining categories	カテゴリーの定義
	or	
A,B,C	Copy club list from archive	ファイルからクラブリストをコピー
A,B,C	Copy categories from archive	ファイルからカテゴリーをコピー

A,B	Register entries	エントリーデータの登録
A,B	Start fee accounts, receipts	参加料の計算と領収書発行
A,B	Addresses, address labels	住所、宛名ラベル

Course setting コースの設定

A,B,C	Controls	データの登録
A,B,C	Courses	コース
A,B,C	Assigning courses to categories	コースをカテゴリーに割り当てる
A,B,C	Course accounts	コースの計算

Start list スタートリスト

A	Start organisation	スタート設定
A,B	Start list draw	スタートリスト作成
A	Start list reports	スタートリスト出力
A,B	Assign and clear SI cards	SIカードの割り当てとクリア

if SI card numbers are known by the entries only (エントリー番号からSIカード番号が定義できる場合のみ)

Notice: 注意事項

・競技者名簿はデータベース化され、エントリー入力が簡単に行えるようになっています。名前の頭文字を打ち込みマウスクリックによりランナーを選択することにより名前、カテゴリー、クラブ、住所が自動的にデータベースから登録されます。

・国内のオリエンテーリング組織から国別の競技者名簿（ファイル）が入手できない場合、自身で大会用のデータベースを利用するのが望ましいでしょう。

・ランナーを区別するには、スタート番号とSIカード番号（どちらか一方でも可）を用います。Type B及びType Cではスタート番号を使わずに運営が可能ですが、参加者が多数の場合はスタート番号を使用した方が運営はたやすいです。スタート番号は事前にリスト作成機能を使う（Type A及びType B）、または大会当日に割り振りを行います（Type B及びType C）。

・大会運営の際の自動ペナチェックはコース定義によりすべて行われるので、細心の注意を払って設定し、チェックを確実に行ってください。また、外部プログラムを使用してコース設定を行いOLEinzelにインポートする場合もっとも注意すべき点です。

・注意：SPORTidentシステムでは、31～255までのコントロールコードにしか対応していません。

詳細はOLEinzelのオンラインヘルプを参照してください。[Help - Content - Check list](#)とクリックし、目的のヘルプを参照してください。

2.3. Event procedures planning 運営手順の計画

運営手順の計画をできる限り早い段階で立てる必要があります。これにより資材の必要数量が定まるためです。また、PC（ネットワーク関連資材も含む）及びSPORTidentシステムをレンタルが必要な場合、その数量も把握することができます。また、運営役員用マニュアル作成の上での基本的事項でもあります。

原則として、最新データが保存されているマスターPC（それにネットワーク接続されているPC含む；以下、システムと呼びます）は、フィニッシュ地区あるいは計センに設置します。

Assign SI cards to runners ランナーにSIカードを割り当てる

SIカードを各ランナー（あるいはスタート番号）に割り当てる必要があります。このやり方にはいくつかの方法があり、以下に説明します。

1. Simple solution 簡易方式

各ランナーにスタート番号をつける以外、特に他の準備は行いません。SIカードをフィニッシュで読み取り、ゼッケンからスタート番号読み取り、手動で入力します。

2. Simple solution (2) 簡易方式(2)

各ランナーにスタート番号をつけず、システムに入力します。大会本部またはスタート（の方がよいが）でスタート番号を記したラベルをSIカードに貼り付けます。SIカードをフィニッシュで読み取り、スタート番号を手動で入力し

3. Optimization of 1. and 2. (1)(2)の折衷案

スタート番号をSIカードに電子的に書き込みます。ただしこの作業には、SIManagerがインストール済みのPCがスタートに必要です。それ以外には特に入力作業の必要はありません。

4. Swiss model スイス方式

SIカード番号を大会本部で事前に登録し、システムに入力します。そして、OLEinzelにより各ランナーに割り当てます。

5. German model (for 1998 only?) ドイツ方式

使用するSIカードはすべて事前に大会運営者の管理下におかれており、OLEinzelにより各ランナーに割り当てます。SIカードはスタートで配布し、フィニッシュで回収します。

1と2の簡易方式の場合、上限は200名程度になります。3の場合はスタートに電源設備が必要になります。また、PC1台での処理能力は毎分8人が限界です。4の場合はランナーがフィニッシュするまでにSIカード番号をシステムに入力し終わるようにしなくてはなりません。5の場合、もし多くのランナーが個人持ちのSIカードを持っているような状況ではもはや実用的ではないかもしれません。

Registrations/competition centre 申込 / 大会運営本部

大会運営本部はコンピュータシステムと独立して処理を行うこととなります。変更などの処理は、用紙に記入しておき、後でシステムに入力します。ここで処理されるSIカード番号は大会運営上非常に重要であることを念頭においてください。

Start スタート

手順：

ランナーの呼び出し。(A)

SIカードをクリアステーションでクリアする。(A,B,C)

SIカードをチェックステーションでチェックする。(A,B,C)

事前に定められたスタート時刻にスタートする。(A)

またはスタート時刻にスタートステーションにパンチする。(B,C)

Competition area 競技エリア

各コントロールには、SIコントロールステーションとバックアップ用のパンチを設置します。

Finish フィニッシュ

計時はSIフィニッシュステーションを用います。バックアップは従来の計時方法（あるいはもっと簡易な方法）によります。

Evaluation タイム計算

SIカードをシステムで読み取り、その後各ランナーはスプリットタイムの印刷されたシートを受け取ることができます。また、速報を適当な間隔で出力します。

2.4. Equipment planning 機材計画

以下の表に、大会当日必要となる機材や人員を大会形式別にまとめました。

	参加者数	PC 関係機材	SI ステーション	人員
Type A	500-1000	3 PC, 3 プリンタ ネットワークケーブル 2x 電源 (必要なら) 1 PC (予備)	3x クリア 2x チェック 3x フィニッシュ 1x デモ 5x 予備 5x 2台設置 = 19 + コントロール数	5x スタート 3x フィニッシュ 2x 計セン

			2x SI マスターステーション + 1 予備	
Type A	200-500	2 PC, 2 プリンタ ネットワークケーブル 2x 電源 (必要なら) 1 PC (予備)	2x クリア 1x チェック 2x フィニッシュ 1x デモ 5x 予備 1x 2台設置 = 12 + コントロール数 1x SI マスターステーション + 1 予備	3x スタート 2x フィニッシュ 2x 計セン
Type A	200 未満	1 PC, 1 プリンタ 2x 電源 (必要なら) 1 PC (予備)	1x クリア 1x チェック 2x フィニッシュ time 1x デモ 5x 予備 1x 2台設置 = 11 + コントロール数 1x SI マスターステーション + 1 予備	3x スタート 2x フィニッシュ 2x 計セン
Type B	200 以上	2 PC, 2 プリンタ ネットワークケーブル 電源 (必要なら) 1 PC (予備)	2x クリア 1x チェック 1x フィニッシュ time 1x デモ 5x 予備 1x 2台設置 = 11 + コントロール数 1x SI マスターステーション + 1 予備	2x スタート 1x フィニッシュ 2x 計セン
Type B	200 未満	1 PC, 1 プリンタ 電源 (必要なら) 1 PC (予備)	1x クリア 1x チェック 1x フィニッシュ time 1x デモ 5x 予備 1x 2台設置 = 10 + コントロール数 1x SI マスターステーション + 1 予備	1x スタート/フィニッシュ 1x 計セン
Type C	100 以上	2 PC, 2 プリンタ ネットワークケーブル 電源 (必要なら) 1 PC (予備)	1x クリア 1x チェック 1x フィニッシュ time 1x デモ 5x 予備 1x 2台設置 = 10 + コントロール数 1x SI マスターステーション + 1 予備	1x スタート/フィニッシュ 1x 計セン
Type C	100 未満	1 PC, 1 プリンタ 電源 (必要なら) 1 PC (予備)	1x クリア 1x チェック 1x フィニッシュ time 1x デモ	1x スタート/フィニッシュ 1x 計セン

			5x 予備 1x 2台設置 = 10 + コントロール数 1x SI マスターステーション + 1 予備	
--	--	--	--	--

SIカードの必要数量は正確には見積もることができないかもしれませんが、将来的にはエントリー時に個人持ちSIカードを所持しているかどうか尋ねる必要があるでしょう。個人持ちSIカードの数量がわかれば、SIカードの必要数（またはレンタルする必要がある数量）が明らかになります。

また、ノートPCとレーザープリンターを用意したほうがよいでしょう。これらPC関係およびネットワーク関係機材については3.1で述べます。

レンタル機材の輸送にかかる日数と手順をなるべく早い段階で把握しておくようにしてください。もしLANを使用する予定であれば、十分に練習を積んだ方がよいでしょう。実際に使用する予定の機材は事前に準備し、数日前に正常に稼働するかどうかチェックする必要があります。

2.5. Practical examples 実例

2.5.1. Training event type C 練習会レベル(type C)

スタート、フィニッシュ、大会運営本部はクラブハウスの周りに配置するようにします。マスターステーションを接続したPCを1台用意し、エントリーと計セン用に使用します。もう一人はスタートとフィニッシュを担当します。各ランナーはPCのところでエントリーし、SIカードを割り当てられます。ランナーはそれぞれスタートの手続き（クリア、チェック）を済ませた後、スタートステーションにパンチしてスタート時刻を記録します。コースを回って、フィニッシュステーションで時刻を記録し、各ランナーのSIカードをPCで読み取ります。役員がPCでのエントリー作業に忙しい時には、少し待たされることもあるかもしれません。また、速報は適当な時に随時出力します。

100人以上の参加者があるような場合、ネットワーク接続された2台のPCが必要となります。1台はエントリー用に、もう1台は計セン用に使用します。また、役員はもう何人か必要になるでしょう。

2.5.2. Open event type B 標準大会レベル(type B)

2.5.1の場合と似通ってはいますが、大半は事前申込となっています。大会本部は電源のないフィニッシュ地区付近に置かれます。PC関係機材をテントまたは車の中に設置し、電源は車から供給します。

SIカードはPCで登録します。スタートがフィニッシュ地区と離れている場合、人員が余分に必要になります。

当日申込が少ないため、2台目のPCが必要となる目安はやや多く、おおむね200人以上といったところでしょうか。

2.5.3. Regional ranking event type A 地方選手権レベル(type A)

大会本部、スタート、フィニッシュ地区は別々の場所となります。150人程度の参加者であれば、スタートとフィニッシュは2.5.2の場合と変わりありません。

大会運営本部はコンピュータシステムと独立して処理を行うこととなります。変更などの処理は、用紙に記入しておき、後でフィニッシュ地区のPCでシステムに入力します。

スタートの運営手順はスタートリストが事前設定されている通常の場合と同様ですが、スタート1~3分前にクリア・チェックステーションを置かなければなりません。

各ランナーは事前に設定されたスタート時刻にスタートし、フィニッシュステーションでパンチし時刻を記録します。各ランナーのSIカードをPCで読み取るときにスタート番号を手動で入力します。

2.5.4. National event or championship type A 国内選手権レベル(type A)

2.5.3の場合と基本的な方法はほとんど変わりありません。大きな違いは、参加者が500~1000人規模となるため、機材や人員が十分必要になるということです。特に、スタートでクリア・チェックステーションが十分な数だけ必要になることを念頭においてください。基本的には、クリアステーションは同時にスタートするランナー8人に対して1台、かつ最低2台は用意するようにします。チェックステーションは2台あれば十分足りませんが、どちらにも使える予備のステーションを1台用意しておきましょう。

また、最終コントロールとフィニッシュステーションは十分な数だけ用意してください。経験から言えば、最終コン

トロールに3台、フィニッシュに4台あれば十分でしょう。

最大の問題はデータ処理ですが、ネットワーク接続されたPC4台とプリンタが最低3台は必要です。SIカードは2台のPCで読み取り、もう1台は速報の出力とトラブル対応用にします。また、残りの1台は予備とします。詳しくは、3.1項を参照してください。ここ最近の経験からすると、3000人規模まではこの体制で可能と考えます。

3. Preparations for the competition day 大会当日の準備

事前に大会機材の準備とチェックをしておく必要があります。できれば大会当日実際に使用するものを当日と同じ設定にしてチェックを行ってください。そのようにしておけば、大会当日の作業としては、機材を設置するだけで済ませることができます。

3.1. SPORTident equipment SPORTident システムの機材

SPORTident システムの機材をレンタルする場合、数量を事前に把握しておく必要があります。大会運営者は準備に必要な期日に確実に届くように手配するようにします。以下に手持ちの機材を使用する場合のチェックリストを示します。また、数量については2.4項を参照してください。

- ・ SI カードの読み取り、SI コントロールステーション操作に使用する SI マスターステーション BSM3
- ・ マスターステーションと同数の 9V 電源ユニット
- ・ SI ステーションを設定するとき使用する連結棒 (2 本)
- ・ SI コントロールステーション (コントロール記号は 31 以降を割り当てます)
その他の、クリア・チェック・デモ・スタート・ゴール用のステーション (事前に割り当てをしておきます)
予備のステーション
- ・ 必要数の SI カード
- ・ SI ステーションの電源投入用の磁石
- ・ SI ステーションのバッテリー交換に使用するドライバー
- ・ SI ステーションをパンチ台に固定するためのドライバー
- ・ ラベル、マジック、テープ、はさみ (番号を訂正や、予備のユニットを使うときのため)

もちろん、パンチ台も確認しておく必要があります。

- ・ 正しいコントロール記号が付けられているか? (スタート、ゴールユニットも確認)
- ・ SI ユニットとパンチ (予備に使用) がきちんと固定されているか?

SI システムをレンタルする場合、お試しセットを事前に入手することも可能です。

3.2. PC hardware PC関係機材

使用する PC には OLEinzel がインストールされている必要があります。また、マスター PC から Backup - Restore の操作によってイベントが設定されている必要があります。

使用する PC はすべて事前に動作確認しておく必要があります。:

- 実際に使用するイベントを機能が動作するか。
- プリンタの動作 (出力、レイアウトの設定、プリンタの設定)。

SI マスターステーションの動作

SI マスターステーションをパソコンのシリアルポートに接続する。

SI マスターステーションに電源を接続しオンにする。この際に、ブザーが鳴ると同時に、黄色ランプが点灯することを確認してください。

「SI card の読み取り」を選択します。

OLEinzel の画面で、緑ランプが点灯すれば正常に動作しています。

もし、「interface not ready」 „SI station not ready” などのエラーメッセージが表示された場合、シリアルポートの設定を再度確認してください。

シリアルポートが複数の場合 COM1、COM2 のどちらに接続しているかを確認します。また、その他のシリアルポートの設定が 4800bps、データビット 8bit、パリティなし、フロー制御なしとなっているかを確認し、必要があれば設定を変更します。この場合、パソコンを再起動しないと設定が反映されない場合があります。また、コネクタがきちんとささっているかを確認してください

通常は COM2 を使用しますが、ノートパソコンでは (シリアルマウスが接続されていない場合) COM1 となっていることがあります。また、外付けのポートや USB 変換コネクタを使用する場合は COM 番号が自動的に変わる場合がありますので接続する COM 番号を確認します。

「Event - Options.」を選択します。

スタート番号の設定されているSIカードの場合：

スタートでSIカードを割り当てる場合には選択し、そうでなければ選択しません。

スタートステーションを使用してリアルタイムスタートする場合：

typeB または C の場合に選択します。typeA の場合には選択しません。

フィニッシュステーションの使用；パンチングフィニッシュの場合に選択します。

別のPCからイベントを複製した場合、設定も引き継がれます。そのためマスターステーションの設定が正しければ、正しく設定されます。

リザルトシートの設定

「Read SI cards」から「Result sheets」を選択し、「Automatic」を選択します。このようにすれば、SIカードの読み取りを行うと自動的にリザルトシートが出力されます。

スプリットタイムシートのラベルレイアウト

出力形式については「Help - Options - Labels - Results」または印刷のダイアログを参照してください。A4用紙に対応した6種類の既定の形式がありますし、必要に応じてご自身で作成・調整することも可能です。また、作者からより多くのレイアウトを入手することも可能です。

レイアウトの定義は、アプリケーションのインストールされたフォルダに、LAY*. * という4つのファイルに保存されています。必要に応じてマスターPCから他のPCにコピーして使用してください。

SIステーションを設定するために、最低1台のPCにはSPORTident Manager (SIManager)がインストールされている必要があります。これはマスターPCでもかまいませんが、予備のPCの方がよいでしょう。マスターステーションがOLEinzelとともに動作しているか確認する必要があります。（注意）：たとえ同一のPCであっても、マスターステーションがOLEinzelと動作しているからといって、SIManagerとの組み合わせで動作するとは限りません。双方のソフトは設定が別々になっているので、それぞれ個別に確認する必要があります。

Printers プリンタ

プリンタがボトルネックとなる可能性が最も高いので、スプリットタイムシートを出力するにはレーザープリンタを使用することをお勧めします。

事例を挙げますと、ランナーが自分でマスターステーションにSIカードを読み取らせるという条件の下では、毎分20枚を読み取ることが可能です。1枚あたり3人分のスプリットタイムシートを出力するとして、プリンタの能力としては毎分7枚以上出力することが必要となります（もちろんシートを1人分に切る作業に十分な人員が必要ですが）。

成績（速報）のみを出力する場合は、インクジェットプリンタでも十分でしょう。が、雨天時には無理です。

また、ランナーの数から予備トナーや出力用紙の必要量を算出し、十分な数量を用意するようにしてください。

Time taking 時刻設定

スタート（TypeAの場合）、バックアップには電波時計を使用してください。電波時計は手の届く価格になっていますし、オリエンテーリング協会などの国内組織からレンタルすることも可能です。スタート用の大型のデジタル時計、スタートチャイマーも同様です。

この時計と、PCの内部時計を合わせてからSIステーションの設定を行います。また、パラレルポートに接続してPCの内部時計を自動的に合わせることもできる、専用の装置を使って行うことも可能です。

Power supply 電源

フィニッシュ地区で電源を車の発電機から供給する場合、実際に使用するPCを使用して動作を確認してください。また予備の機材も忘れずに用意しましょう。

3.3. Networking ネットワーク

次のようなケースでは、ネットワークを使用する必要があります。2.4項の表を参照してください。

- ・ TypeBまたはA（参加者200名以上）で、大会当日に新規エントリーを登録する必要がある場合
 - ・ 参加者が多く、複数の読み取り用ステーションを用意する必要がある場合、
- もし可能なら、実際に稼働しているLANシステム（個人または職場用）をそのまま使用できるとよいでしょう。それならば、トラブルの最大の要因を排除することができます。

まず、使用するPCをすべて3.2項のとおり設定しておきます。

使用するPCが、別々のLANシステムで使用されていたものであれば、まず以下の設定を確認してください。

- ・ワークグループの設定
「コントロールパネル - ネットワーク - 識別情報」から、すべてのPCを、同一のワークグループ名に設定します。（例：SPORTident）また、コンピュータ名は識別可能な適切な名前に設定してください。
- ・ネットワークプロトコルの設定
「コントロールパネル - ネットワーク - ネットワークの設定」から、すべてのPCを、同一のネットワークプロトコルで同一の設定にします。「優先的にログオンするネットワーク」を、「Microsoft ネットワーククライアント」に設定します。「ファイルとプリンタの共有」を、両方ともチェックをオンにします。「アクセスの制御」を、「共有レベル」に設定します。
- ・ケーブルの種類
すべてのPCは同じネットワークケーブルで接続する必要があります。（10base-Tの場合）RJ45 ケーブルを使用し、ハブで相互に接続します。あるいは、（10base-2の場合）BNC 同軸ケーブルを使用します。その場合終端抵抗（ターミネータ）を忘れずに。

以上の設定を終えたら、共有の設定を行います。

- ・サーバ側のハードディスクを共有する。
サーバはネットワーク上のすべてのクライアントから読み書きができるようにする必要があります。サーバ側PCで、「マイコンピュータ」からハードディスクドライブを右クリックし、「共有」メニューを選択します。「共有する」のチェックをオンにし、「共有名」は特に変更する必要はありません。また、アクセスの種類は「フルアクセス」を選択、パスワードは設定しません。クライアント側からサーバ側のディスクにアクセスできるかどうか確認します。各クライアントPCのエクスプローラを起動し、「ネットワークコンピュータ」を開き、さらにサーバに設定したコンピュータ名のアイコンを開くと、共有ドライブが確認できます。以上の設定を終えると、サーバ側のハードディスクが自分のディスクと同様に扱えるようになります。
- ・ドライブ文字を設定する。
OLEinzelからサーバ側のディスクにアクセスするには、各クライアントPC側でドライブ文字を割り当てる必要があります。各クライアントPCのエクスプローラを起動し、サーバ側の共有ドライブを右クリックし、「ネットワークドライブの割り当て」を選択します。適切なドライブ文字を選択し、「ログオン時に再接続」をオンにします。
- ・プリンタの共有
必ず必要というわけではありませんが、ネットワーク上のプリンタを共有すると非常に有用です。事前に全てのクライアントPC側に必要なネットワークプリンタのドライバをインストールしておきます。そして、必要なときにネットワークプリンタに切り替えて印刷します。あるいは、クライアントPCに接続されているプリンタから出力しながら、ネットワークプリンタを使用することができます。
- ・クライアント側のハードディスクを共有する。
クライアントPCのハードディスクを共有することは、ネットワーク上のファイル管理に非常に有用です。

最初のネットワークのチェックをする前に全てのPCの電源をおとします。始めにサーバPCの電源を入れ、その後各クライアントPCの電源を入れます。「ネットワークドライブに接続できません」というエラーメッセージが出ることがありますが、これはPCにより起動の速さに差があるためです。「次回のログオン時に接続を復元しますか？」というメッセージが表示された場合には、「はい」を選択します。すべてのPCが起動すると、ネットワーク接続は自動的に確立します。うまくいかない場合には、そのPCを再起動してネットワークに接続できるか確認します。

OSレベルでは、各PCの「ネットワークコンピュータ」から、ネットワークに接続されたすべてのPCと共有リソース（ドライブ、フォルダ、プリンタ）を確認することができます。

OLEinzelのネットワーク設定（サーバ、クライアント）は、OLEinzel - Networkの項で説明します。OLEinzelのソフト側での設定とOSレベルでの設定がさらに必要となります。OLEinzelのイベントデータが問題なく共有できるように、設定しなければなりません。

ネットワーク利用の場合の、各PCの割り振りは以下の表のようになります。

	2 PC	3 PC	4 PC
サーバ	SIカード読み取り (速報出力)	SIカード読み取り	SIカード読み取り
クライアント1	変更作業 (エントリー) バックアップ トラブル対策用 速報出力	トラブル対策用 速報出力	SIカード読み取り
クライアント2	---	変更作業 (エントリー) バックアップ (速報出力)	トラブル対策用 速報出力
クライアント3	---	---	変更作業 (エントリー) バックアップ (速報出力)

原則として、SIカードの読み取りはサーバPCで行います。これにより、もしネットワークにトラブルが発生した場合でも、処理を止めずに済ませることができます。

最も重要な点は、定期的にバックアップの処理を（例：15-30分毎）の処理を行うことです。すべてのクライアントPCをメインメニューに戻します。OLEinzelが立ち上がっている必要はありません。サーバPC側では、「Event - Backup」から、バックアップ先としてクライアント側の適切なフォルダを指定します。バックアップは数秒で完了しますので、その後は通常の処理に戻ることができます。

サーバがダウンした場合、クライアントPCのうちから新たなサーバを立てます。「Event - Restore」からバックアップデータを読み取り、システムを復旧します。詳細は4.5項を参照してください。

事前にすべてのPCとプリンタの役割分担を決めておき、ケーブル・その他の機材はラベルを貼っておきます。ネットワークの動作確認をするときは、サーバ側にチェック用のデータを設定しておきます。その際にはトラブルを避けるため、テスト用のイベントを使用するようにします。「Courses - Simulation」によってSIカードのパンチをし、シミュレーションを行います。

> 訳者注：

ネットワーク設定の方法は、Windows95/98/98SE/Me、WindowsNT/2000で多少異なります。

また、必ずしも、ここで推奨されている設定でなくても動作するようです。

「優先的にログオンするネットワーク」は、「Windows ログオン」でも問題なし。

「ドライブ割り当て」しなくても、OE2000のインストールフォルダを直接共有しても問題ありません。

また、ネットワークプロトコルは「NetBEUI」「TCP/IP」でもどちらでも構いませんが、「Microsoft ネットワーククライアント」「Microsoft ネットワーク共有サービス」「LANアダプタ ネットワークプロトコル」が「現在のネットワークコンポーネント」に含まれているかどうかを確認してください。

また、LAN(10base-T)で主要な主なトラブル原因になるのは、以下の点です。まず確認してください。

- ・ケーブルの抜け、ゆるみ、断線。ケーブルの種類（ストレート、クロス）。
- ・ハブの電源、ハブのポート設定（カスケードポート切替スイッチ）
- ・LANアダプタの接続、IRQ、メモリ範囲の競合、ドライバのインストールミス
- ・ネットワーク設定の誤り：ワークグループ名が統一されていない、ネットワークプロトコルがインストールされていない。ファイルとプリンタの共有がオフになっている。
- ・フォルダまたはドライブの共有設定がされていない。フルアクセスになっていない。
- ・ネットワーク先のプリンタに共有設定がされていない。ネットワークプリンタのドライバインストールミス。ネットワークパスの誤り。
- ・クライアント側のソフトで、LANを使用するにしていない。サーバのアプリケーションパスがきちんと指定されていない。

4. Competition day 大会当日

4.1. Preparing SI stations - putting out the controls

SI ステーションの準備 – 大会用コントロールを実際に準備するにあたって

実際に使用する SI ステーションの設定と準備は、できる限り直前に行うようにします。設定を行った後、SI ステーションは電源 ON になり、省電力（スタンバイ）モードに入ります。設定された時刻に電源が自動的に入り、通常のアクティブモードで動作します。同様に、設定された時刻になると電源が切れます。

以上の SI ステーションの設定はすべて同じ PC で行うようにしてください。また、一度設定を行った後、大会運営中に設定のやり直しをできる限りしないようにしてください。

PC の準備

- 準備（SI マスターステーションの接続と電源 ON）
- *SIManager* を設定: 適当な名前をつけて新規イベントを作成する。
- 作成した新規イベントを選択する。
- PC の内部時計を電波時計に合わせる。

SI ステーションは多機能ユニットとなっており、クリア、チェック、スタート、フィニッシュ、通常のコントロール、と目的に応じて設定することができます。スタンバイモードにおいても電池は消耗してしまうため、実際に使用する SI ステーションの設定と準備は、できる限り直前に行うようにします。

通常のコントロールに使用する SI ステーションは、設置直前に設定を行うようにします。大会当日の早朝か、前日に行うのがよいでしょう。また、泥棒される危険がある場合は遅ければ遅いほどよいでしょう。

電源 ON 時刻の設定

SI ステーションが、正しい場所に設置され、動作しているかどうかを確認するために、電源 ON 時刻は大会前のコントロール確認に間に合うように設定します。大会当日の早朝に設置を行う場合、設置する人がコントロール確認もすることができます。前日に設置を行う場合、当日早朝に確認を行わねばなりません。遅くとも 1 時間前には確認が完了している必要があります。

電源 OFF 時刻の設定

通常、電源 OFF 時刻は最終スタート時刻 + 最大競技時間（一般に 150 分か優勝時間の 2 倍）に設定します。

コントロールユニットの設定

ここでは最終コントロールを除いて、すべてのコントロールユニットの設定を行います。これには前述の泥棒の危険があり、設置が直前となるコントロールも含まれます。 *SIManager - Prepare SI stations* を参照してください。

SIManager で、メニューから *SI stations - Prepare* を選択します。時計合わせがまだ済んでいないようであれば、PC 内蔵時計を合わせます。電源 ON 時刻、電源 OFF 時刻を入力します。Signal: は両方を選択します。Station type: は、control を選択し、コントロールコードの初期値（通常は 31）を入力します。Clear backup memory. を選択します。

連結棒をマスターステーションの穴に通し、磁石でなぞり電源を入れます。以上で SI ステーション設定の準備が完了です。

- SI ステーションを磁石でなぞり、一時的に電源を入れます。（3 分間 ON になります）
- コントロールコードを画面と見比べて確認します。
- SI ステーションを、連結棒を通してマスターステーションの上に向かい合うように乗せます。
- Write ボタンをクリックするか、Enter キーを押します。
- 設定が始まります。ステータスバーを確認してください。もし、ステータスバーが反応しない場合は、SI ステーションの電源を入れ忘れたか、3 分を過ぎて自動的に OFF となっています。（„SI station not ready“）エラーメッセージが出るまで待ち、もう一度やり直してください。
- Current contents とメッセージを確認します。
- 電池を確認します。メーターが 100% 以上になっているステーションは使用しないでください。これについては、後述します。
- ステーションを取り外し、次のステーションの設定に移ります。*SIManager* では自動的にコントロールコードが順番に 1 つずつ増えていきます。コントロールコードが欠番となっていたり、同一コードを 2 つ以上設定したりする場

SIステーションの設定が終了したら、ログファイルを確認します。メニューから *Event – Select* を選択し、イベント番号を確認します。イベント番号が3の場合、SIManagerのインストールフォルダの中に *SIWK0003* というフォルダを参照します（イベント番号とフォルダの下4桁が対応します）。このフォルダ内の *SIMANLOG.TXT* をメモ帳などのエディタで開き、コントロールコード、電源 ON 時刻、電源 OFF 時刻、電池の残量を確認します。電池残量が 100% 以上の場合、電池を交換する必要があります。（Protocol メニューから上記のデータを画面で確認することもできます）

電池残量が 100% 以上のステーション

これらのステーションは、大会当日動作する保証はありません。他の予備のステーションを使用するか、電池を交換して使用してください。

まず、メニューから *Prepare SI stations –* を選択し、*Turn off* ボタンを押して、電源を OFF にします。もし予備のステーションがあれば、このユニットに（電池 x）印をつけ、予備のステーションを代わりに設定します。または、電池を交換します。

- ・ステーションのカバーを外し、電池を取り外します。
- ・カバーを取り付け、慎重にドライバーで締め付けます。この際に、パッキンの納まり具合と電池のケーブルが挟まっていないか確認してください。
- ・ステーションを磁石でなぞって電源を入れ、マスターステーションにセットします。
- ・メニューから、*Prepare SI stations -New batteries* を選択し、適切な値を設定します。以上でステーションが使用可能になります。

コントロールのパンチを確認する

コントロールのパンチを確認するには、SIカードを準備する必要があります。SIManagerのメニューから *SI cards – Clear* を選択し、スタート番号を空白にして、SIカードをクリアします。SIカードはその固有番号で設定されます。

コントロール確認のスタッフが戻ってきたら、SIカードを読み出し、スプリットタイムを出力し、各スタッフがこれを確認します。

- ・すべてのコントロールコードが正しいか。
- ・通過時刻に異常はないか。

通常、コントロールコードの入れ違いは、設置の際の入れ違いであることが多いので、急いでコントロールを設置しなおす必要があります。

スタート/フィニッシュステーションの設定

スタート用のステーション（クリア、チェック、スタート）、フィニッシュステーション（フィニッシュタイム計測用）、最終コントロール、デモ用のコントロールは、できる限りスタート開始時刻の直前に行います。通常、スタート開始 1 時間前で十分でしょう。電源 ON 時刻は 30 分前、電源 OFF 時刻はコントロールステーションと同じに設定します。スタートステーションは、スタート終了時刻に電源 OFF するようにしても構いません。

PC 内蔵時計が大幅にずれている可能性があるため、もう一度日電波時計に時計を合わせます。

すべてのステーションをそれぞれ目的に応じた設定にします。詳しくはオンラインヘルプを参照してください。

これらのステーションにも、コントロール確認が必要です。フィニッシュステーションやスタートステーションは以前のデータを上書きしてしまうため、それぞれ別に SI カードを用意する必要があります。

スタートには予備のステーションを必ず用意してください。また、予備のステーションが必要になったら、その都度設定をしてステーションを用意します。

ログファイルで、設定の確認を行います。

4.2. Hardware setup ハードウェアの設定

事前に十分準備しておけば、ハードウェアの設定は特に問題なく、すぐに処理に取りかかることができるでしょう。設定が終了したらいくつかの主な機能の動作を確認しておくようにします。準備については第3章を参照してください。

4.3. The competition 大会当日の運営

事前に十分なシミュレーションと計画をしておけば、順調な大会運営ができるでしょう。

スタート、フィニッシュの運営手順については、第2章を参照してください。スタートについては、10個の予備SI

フィニッシュでは、以下のレイアウトを十分検討する必要があります。
 計時線、SIカード読み取り、地図回収、給水、スプリットタイムシート配布所（フィニッシュ運営用テントの対面がよい）

複数の読み取り用ステーションを設置する場合、ランナーがスムーズに読み取りステーションへ迎えるように配置します。また、バックアップを定期的に行うようにします。

4.4. Troubleshooting トラブルシューティング

ハードウェアその他のトラブル、ランナーからの問い合わせに対応する役員を常時2人（typeAの場合）用意します。通常、コースセッターとデータ処理責任者がこの任にあたります。ネットワークを使用している場合、必要な処理は予備のクライアントPC（通常速報印刷用のPC）をこのようなトラブルの対応に使用します。ネットワークを使用せず、1台で処理している場合は、トラブルや問い合わせの内容を紙に書き留めておき、後で対応することになります。クレーム対応用紙にはトラブルの内容と、回答を書けるようにしておくべきでしょう。

注意事項：「„This runner has already a SI card read. Confirm overwrite.“」というメッセージが出た場合、必ず「No（いいえ）」に答えるようにしてください。明らかに「Yes（はい）」で答えてもよく、処理を理解している場合においては、この限りではありません。このSIカードはトラブルが解決されるまで、他のSIカードと区別しておくようにします。また、処理が終了した後で、このSIカードのスプリットタイムシートを再度出力する必要があります。（以下の表の最初の項目を参照）

以下に、よくあるトラブル事例とその解決方法を説明します。

トラブル事例	対処方法
スプリットタイムシートが出力されない(1)	用紙切れ、紙詰まり、他のプリンタトラブル（プリンタの表示窓を見よ！） 上記の原因を取り除きます。（詰まった紙を取り除く、用紙を補給） プリンタの電源は切らないようにします。出力は自動的に再開されます。 プリンタの電源が切れている場合、単に電源を入れるだけです。
スプリットタイムシートが出力されない(2)	プリンタトラブルを解決しても出力されない。 「Selected result sheets」メニューを使用して再度出力します。 「sorted by start numbers」メニューから該当のランナー番号を入力して出力します。
シートに「mp」と表示される。スプリットタイムシートのタイム欄に「W」と表示される。パンチしたコントロール記号の末尾に「*」が表示される。	パンチ誤り（ミスパンチ） もし、最初にフィニッシュしたランナーであれば、コース定義を確認します。コース定義に問題がなければパンチ誤りとなります。「*」印のついたコントロールがパンチ誤りで、実際にパンチしたコントロール記号が表示されます。コントロールの通過時間と全コントロール図を参考に、ランナーと話し合います。
シートに「mp」と表示される。スプリットタイムシートのタイム欄に「W」と表示される。パンチしたコントロールが記録されていない。	コントロール不通過 ランナーが正しくパンチしなかったか、あるいは全くパンチしなかったかのどちらか。ランナーがシグナルを確認する前にSIカードを引き抜いた場合、SIステーションが不調で、ランナーがバックアップのパンチを行っていない場合、このランナーを失格にする前に、あらゆる可能性を考えて対処するようにします。同一コースの他のランナー記録と照合します。または、ジュリーに判断を求める必要があるかもしれません。
同一コースのランナー全てが、同じパンチ誤りをしている。(1)	コース定義が誤って設定されている。 「Evaluate SI cards」から「Report of wrong punches」メニューを選択して、該当のコース情報を出力します。 「Courses – Courses」メニューから、誤ったコントロール定義を修正します。 「Evaluate SI cards」メニューにより、再度読み込みを行います。ランナーが緑色のシグナルになっていても、「mp」と表示される場合は、いったん保存して誤ったパンチを取り消します。
同一コースのランナー全てが、同じパンチ誤りをしている。(2)	「Category – Course」でコース割り当てが誤って設定されている。 「Evaluate SI cards」から「Report of wrong punches」メニューを選択して、該当のコース情報を出力します。 「Courses – Categories」メニューから、コース割り当てを修正します。

	<p>「Courses – Courses」メニューから、誤ったコントロール定義を修正します。</p> <p>「Evaluate SI cards」メニューにより、再度読み込みを行います。ランナーが緑色のシグナルになっていても、「mp」と表示される場合は、いったん保存して誤ったパンチを取り消します。</p>
ランナーが多くのパンチ誤りをしている。(1)	<p>ランナーが違うコースに出走している。</p> <p>Correct the category by 「Entries - Changes」メニューにより、コースを修正します。</p> <p>「Evaluate SI cards」メニューにより、該当のランナーを表示します。ランナーが緑色のシグナルになっていても、「mp」と表示される場合は、いったん保存して誤ったパンチを取り消します。</p>
ランナーが多くのパンチ誤りをしている。(2)	<p>ランナーが違う地図で違うコースに出走している。</p> <p>これにどう対処せよというのでしょうか???</p>
ランナーが多くのパンチ誤りをしている。(3), シートに表示されているランナーの名前が誤っている。	<p>ランナーが間違ったSIカードで出走している。(エントリーデータが誤っているが、スタートへの途中で入れ替わっている)</p> <p>「Start list - SI cards」から、入れ替わった双方のランナーのデータを消去する。手動で正しいスタート番号を割り当てし直し、このSIカードを再度読み取る。後で、この作業を行う場合はスタート番号を書き留めておく。</p>
ランナーにはパンチ誤りがない。シートに表示されているランナーの名前が誤っている。	<p>ランナーが間違ったSIカードで出走している。(エントリーデータが誤っているが、スタートへの途中で入れ替わっている)たまたま、双方が同一コースに出走していた。</p> <p>「Start list - SI cards」から、入れ替わった双方のランナーのデータを消去する。手動で正しいスタート番号を割り当てし直し、このSIカードを再度読み取る。後で、この作業を行う場合はスタート番号を書き留めておく。</p>
SIカードが定義されていない。	<p>ランナーが間違ったSIカードで出走している。(システムに誤ったデータが登録されているが、スタートで予備のカードを使用した)</p> <p>ランナーから正しいスタート番号をききだして入力する。</p>
ランナーがステーションの故障(シグナルが動作しない)を申告してきた。	<p>SIステーションの故障</p> <p>予備のステーションを用意し、同じコントロール記号を割り振って、故障したステーションと取り替える。</p>
ステーションの故障により、パンチがされていない。地図にバックアップパンチがされている。	<p>SIステーションの故障。バックアップパンチが利用可能。</p> <p>「Evaluate SI cards - Insert control」で、全てのランナーにこのコントロール番号を挿入する。ログを出力し、その後の処理の際に利用できるようにする。ログを参照しながら、地図のバックアップパンチを確認する。バックアップパンチが出てくるたびに、この処理を繰り返す。バックアップパンチの確認できないランナー(そう多くはないだろうが)については、パンチを再度取り消して失格にする。</p>
コースの最初または最後の部分でパンチされていない。または、パンチが全くない。	<p>ランナーが棄権した。またはショートカットした。</p> <p>たいていの場合、ランナーは素直に申告してくれるでしょう。そうでなければ、ランナーと話し合います。</p>
ランナーが正しくパンチしていたが、タイムが出ていない。	<p>ランナーがフィニッシュステーションにパンチしていない。</p> <p>バックアップのタイム記録を調べます。「Evaluate SI cards」でフィニッシュタイムをフィニッシュパンチとして手動で入力して保存します。</p>
「私は絶対にそこへ行っている。誰かが見ているし、きちんとパンチした。」などと、パンチ誤りをしつこく否定。	<p>ステーションのバックアップを読み取って確認する。</p> <p>しばらく、このランナーを失格扱いにしておく。</p> <p>原則として、SIカードのデータは、“常に”ステーションのバックアップデータと一致しています。ランナーがSIカードをすばやく抜いた場合、バックアップを読み取るにより通過を証明することができる場合があります。ステーションの電源が切れてから、データ読み取ります。SIManagerの場合、「SI stations - Read backup.」からログを印刷し、データをファイル(例:C53.TXT)に出力します。このファイルをメモ帳などで開き、スタート番号で検索します。</p> <p>スタート番号が見つからない場合、実際にランナーはパンチしてないこととなります。このようなことは、現実には起こり得ます。このような場合、ランナーは「もしかすると”パンチしていなかったかもしれない”などと言い出すことが、よくあります。</p> <p>スタート番号が見つかった場合、「ErrA」のようなA~Fまでの文字の入ったパンチがあるはずですが、これらは、パンチが早すぎた場合に表示される記号です。実際のパンチの時刻はおおよそですが、前後のパンチから判断できます。このような場合、常識的にはこのランナーを失格にすべきでしょう。通常のコントロールカードに薄</p>

	いいパンチをするようなものですから。しかしながら、このようなケースはよく起こりがちで、ジュリーがランナーを救済する場合があります。 .
「私は正しいコントロールへ行っている。間違っただコントロールへ行っただが、その後正しいコントロールでパンチしている。」などと、パンチ誤りをしつこく否定。	ステーションのバックアップを読み取って確認する。 しばらく、このランナーを失格扱いにしておく。 上記と同様な処理を行い、双方のパンチを確認する。 間違っただコントロールのパンチがあれば、スプリットタイムシートの記録と一致するはずだ。正しいコントロールについては、上記と同じ考え方で処理します。

4.5. Network server failure during the event ネットワークトラブルの対処

誰もこのようなトラブルが自分の身に降りかかってきてほしいとは思わないでしょうが、あなたがトラブルを解決してできる限りすばやく作業を再開できるように、本節ではこの問題について述べます。

まず、サーバPCを再起動してみます。OS以外のアプリケーションが動作していないとよいのですが。再起動後、作業が再開できるはずですが。

サーバPCが深刻なダメージを負っている場合（ハードディスククラッシュなど）、バックアップ先のクライアントPCには、最新のバックアップデータが残っているはずですが。その時刻以後に処理されたSIカードのデータはありません。通常、データの残っていないSIカードはバックアップ間隔の逆数の比率になります。SIカードを再度読み込むことには何ら問題はありません。ただし、自分専用のSIカードを使用したランナーはもう一度、読み取りユニットの置いてある場所（計算センター等）に来てもらわねばなりません。「何時何分～何時何分までにフィニッシュしたランナーは来てください」のように呼び出すことになるでしょう。

しかしながら、まずPC環境を復旧することに集中しなければなりません。その間読み取りの済んでいないSIカードが貯まっていきますが、順番に並べて保管しておきます。

ネットワークをシャットダウンする

サーバPCがダウンした場合、クライアントPCも作業ができなくなります。OLEinzelも処理が中断されます。クライアントPC側では、「ctrl-alt-del」キーを押し、「OLEinzel V.9.01 Pro」をダブルクリックして、OLEinzelを強制終了させます。この後、クライアントPCすべての電源を落とします。

バックアップ用クライアントを新しいサーバに立てる

バックアップ用のクライアントPCを新しいサーバにします。以下、これを（新）サーバと呼びます。サーバを再起動し、OLEinzelを立ち上げます。OLEinzelは旧サーバを探せないで、自動的にローカルモードになります。イベント（作成済みの）を選択し、「Event - Restore」で最新のバックアップからデータを復旧します。これで、処理ができるようになりました。

まだ動作していない場合はマスターステーションを接続し、「Read SI cards」を選択します。もし、マスターステーションが動作していれば、これでSIカードの読み取りができるようになります。もし、中断の間に読み取ったSIカードがある場合、後でこの作業をクライアントで行う必要があります。

次にバックアップを行う場合、可能ならば異なるクライアントにバックアップするようにします。

全てのクライアントPCを再起動する（すべてのPCで同様の処理を行います）

クライアントPCを再起動し、OLEinzelを立ち上げます。OLEinzelは旧サーバを探せないで、自動的にローカルモードになります。

必要であれば、新サーバのハードディスクにドライブ文字を割り当てます。エクスプローラを起動し、サーバ側の共有ドライブを右クリックし、「ネットワークドライブの割り当て」を選択します。適切なドライブ文字を選択し、「ログオン時に再接続」をオンにします。

「Help - Options - LAN」でネットワーク処理に移行します。定義したドライブ文字を選択することにより、このクライアントPCでの作業が可能になります。作業とプリンタの割り振り（旧サーバ用がひとつ余ることになります）を変える必要があるかもしれませんが。

このドキュメントは、Organiser's handbook OLEinzel V.9.01 and SPORTident を日本語訳したものです。

特に複製や利用に関しての制限は設けませんが、この日本語訳ドキュメントを改良された場合、その他ドキュメント内容についてのご意見ご指摘等がございましたら、訳者までご一報くだされば幸いです。

日本語訳ドキュメントの最新版は <http://homepage1.nifty.com/s-abe/> にて入手できます。

なお、訳者はこのドキュメントを利用した事によって生じた損害について、責任を負いません。

原文（英語）ファイル“oe90si_eng.doc”およびOLEinzel V.9.01（デモ版）は、SPORTident 社ホームページ、<http://www.sportident.se> より入手できます。ご覧になることをお勧めいたします。